

和紙の原料とこだわり

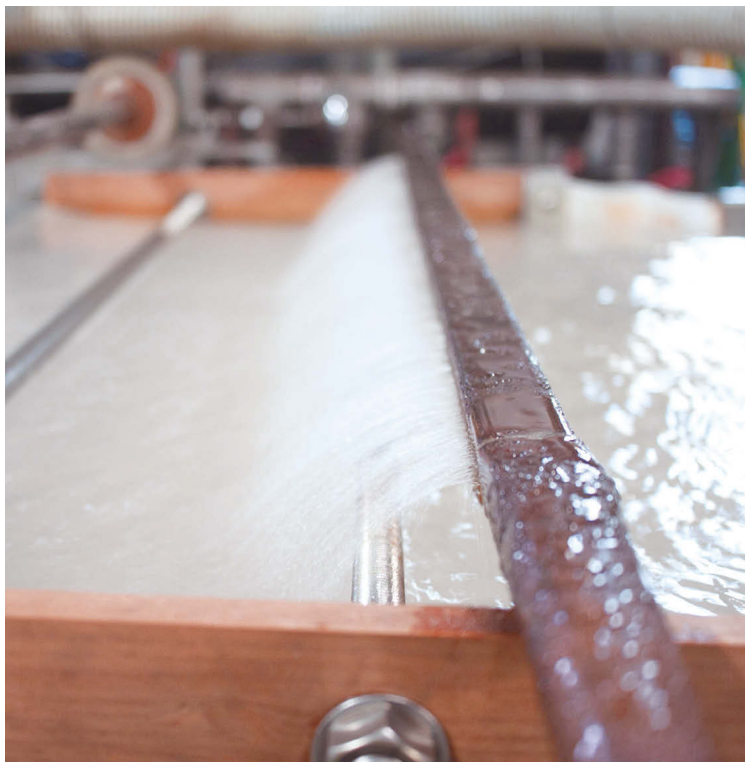
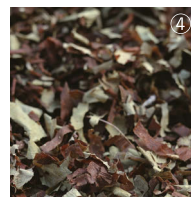
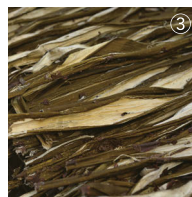
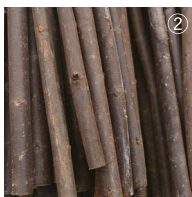
高知県は原料となる楮(こうぞ)・三桮(みつまた)の産地として知られ、その質が高いことでも知られています。モリサでも毎年初冬に自社畑の楮を刈り楮和紙を限定生産しています。

原料となる植物をはぐくむ深い森、紙漉きに適した水質と豊富な水資源、新しい事に挑む先進の気質が土佐和紙の現在を作りあげてきました。

また、私たちは「現代の生活で使える和紙」を開発する事に尽力しています。昔ながらの楮・三桮・雁皮(がんび)など原料を「書く」「包む」など用途に合わせて処理や配合を変え、時には化繊などを混ぜることで、熱融着性や耐水性を持たせ、新しい用途に使用できるように改良を重ねました。このような機能を持った和紙は、暮らしの中で生き生きと役割を果たすことができます。

和紙がもつ素材感や表情の豊かさが、「選りすぐりの美味しさ」や「グレードの高さ」を表現し、ひとりひとりの「大切に包みたい」「気持ちを届けたい」という思いを伝え、和紙を使うことで日々の暮らしが、より「たのしく、おもしろく、美しく」なることがモリサの使命と考えています。

①清流仁淀川の川沿いでモリサが自社栽培しているこうぞ(写真奥)とみつまた(写真手前)
②切ったばかりの楮の木③蒸した枝を剥いだ皮(白い部分が紙の原料になる)④楮の樹皮(カス入り柄として抄き込むことがある)⑤皮を剥いた楮の枝



土佐和紙と落水紙

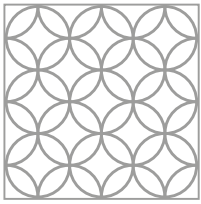
土佐和紙とは、高知県で昔ながらの手法で作られている紙のことで、平安時代の「延喜式」に記述が見られる、長い歴史を持つ紙です。藩政期には「御用紙」として良質の紙を生産し「土佐七色紙」と呼ばれる色彩豊かな紙を漉く技術が出来上がりました。現在でも「かげろうの羽」と例えられる典具帖紙をはじめとする、薄く美しい色合いの紙が土佐和紙の特徴です。モリサは、この地に根付いた技と水の恵みを生かして「薄葉紙」「落水紙」などを機械で漉く紙作りを行なっています。

落水紙とは、薄紙を漉くときに水を表面に落として柄を描き出す和紙で、ぼつぼつと小さな穴が空いたような表情や、水が流れて線を描いたもの、日本古来の文様などの型を置いて線形を写しだしたデザインが特徴です。機械抄きとはいえ、非常にゆっくりとした速度でなければ、落水紙の美しい柄を描き出すことが出来ません。同様に、雲竜の筋を仏画の吉祥雲のように美しく渦巻かせるためには、分速数メートルの抄紙速度と、グラム単位の配合を調合する職人の勘が重要になります。機械を使いながらも知恵と工夫で丁寧を作るやり方は、昔も今も変わりません。



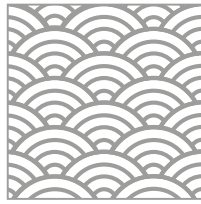
伝統和柄といわれ

古くから愛されてきた和柄には柄の成り立ちやモチーフなどから縁起の良い意味や願いが込められているものがたくさんあります。意味・いわれを知り選ぶことで、贈る想いがいっそう伝わりやすくなります。



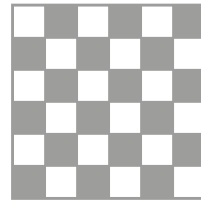
七宝

いくつもの円の円周を四分の一ずつ重ね、上下左右に連続させている模様。四方どちらへも永遠に続く縁起のよい柄です。



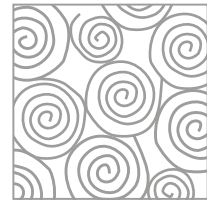
青海波

入れ子になった半円を連続して波を表した幾何学模様。名前は、舞楽「青海波」の装束に使われたことに由来し、古くから吉事に用いられている柄です。



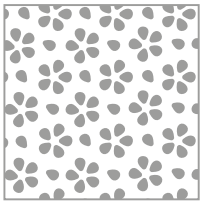
市松落水

市松模様は基盤目状の格子の目を色違いに並べた模様です。「繁栄」の意味から、子孫繁栄や事業拡大など縁起の良い模様として沢山のの人に好まれています。



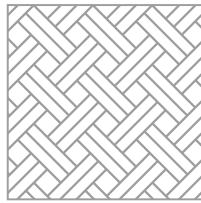
渦巻き

文字通り渦を巻いている状態がつながっている文様です。日本でも、縄文式土器にたくさんの渦が使われていて、エネルギーの根源を表すと言われる柄です。



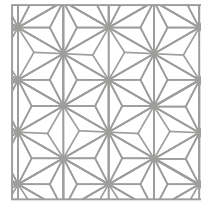
桜

花や花びらを全体に散らしている桜は、日本を代表する花模様。開運招福、五穀豊稔、繁栄を願いも込められています。



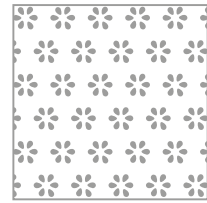
かごめ

竹などで編んだ籠(四つ目編み)の網の目の文様です。籠目を模した連続模様は魔除けの効果があるとされています。



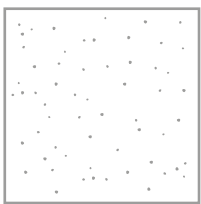
麻の葉

麻の葉をモチーフに正六角形と結びつけた幾何学模様。魔除けの意味がある三角形が集まってできた六角形は、より強力な魔除けの力があると考えられています。



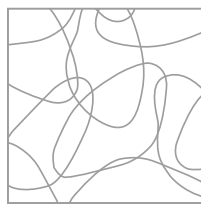
小梅

奈良時代に梅が中国から伝来し、歌や観梅の宴で愛されてきた梅の模様。開運や学業成就のご利益があると言われます。



細雪

シャワーのように水滴を散らして、繊細な柄を描き出しています。和紙らしい風合いとおぼろな透け感が特徴の飽きのこない柄です。



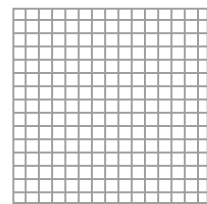
浮雲

ふわふわと浮かぶ雲の様子をデザイン化したモリサのオリジナル柄で、和洋を問わず使われる文様です。



すだれ

平安貴族が使用した簾がモチーフの文様です。季節性がないので通年飽きのこない柄です。



網目

たよこ均等に張り巡らされた網の目。紙にもハリがありシンプルで和洋問わず使える便利な柄です。